

[横浜市民ギャラリー]
令和5年度業務報告及び収支決算
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体]

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市西区宮崎町26-1
構造・規模	鉄筋コンクリート4階建（地下1階～地上4階）
敷地・延床面積	敷地面積 2,301.11 m ² 、延床面積 3,428.44 m ²
開館日	平成26年10月10日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体
代表団体所在地	横浜市中区山下町2番地
代表団体代表者	理事長 近藤 誠一
代表団体設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現指定管理者（代表団体）の管理運営開始日	平成8年4月1日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針 **※原則5年間（令和4年度～令和8年度）変更なし**

日本で最初に「市民ギャラリー」を冠したと言われる施設として、1964年の開館以来、横浜の芸術文化の発展の一端を担ってきた「横浜市民ギャラリー」。市民から親しまれてきた歴史の更なる継続と、横浜市の文化芸術政策等への貢献を念頭に、特に市民の文化活動の支援と次世代育成を重視し、次の3つの方針に沿った運営に取り組みます。

方針1 市民の文化活動を支え、地域と連携しながら、誰もが芸術文化に触れることができる機会を提供し、「市民のための」ギャラリーであるからこそその運営を行います。

- ① 「市民の文化芸術活動を支え、交流を生み、情報発信のターミナルになるギャラリー」としての運営を行います。（使命1）
- ② 「同時代の表現や、個人の創作活動を通して、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供するギャラリー」としての運営を行います。（使命2）

方針2 市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代へ継承するため、保管環境の改善と修復等について横浜市と緊密に情報共有を行い共に取り組むとともに、事業を通じて、その魅力を伝えていきます。また、子どもたちをはじめとして文化に関わる次世代を育成します。

- ① 「市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代に継承すべく力を注ぎ、その魅力を伝え、美術への関心を喚起するギャラリー」としての運営を行います。（使命3）
- ② 「次世代の感性を育て、誰もが生涯にわたって芸術文化に触れる喜びを持つことができるギャラリー」としての運営を行います。（使命4）

方針3 持続可能な施設運営を目指し、変わらない安心と変わる勇気をもって、安心・安全で快適な環境づくりに努めます。

- ① 「安心・安全で持続可能な施設であるために、変わらない安心と変わる勇気を持ったギャラリー」としての運営を行います。（使命5）
- ② 「徹底した感染防止対策の下で、細心の注意と情報共有に努め、迅速に対応するギャラリー」としての運営を行います。（使命6）

(2) 令和5年度の業務の方針 **※年度当初の設定に対する報告**

ア 全体について

第4期の2年目となる令和5年度についても、引き続き幅広い利用者の文化活動実現の場としての貸館事業、当館が主体となって展開する展覧会や講座・ワークショップに加え、収蔵作品の保存活用、他施設との連携、若手作家支援等を培ってきた経験やノウハウを活かし着実な運営を行いました。

ここ数年に渡る新型コロナウイルス感染症予防対策における制限が徐々に緩和されたことを受け、来館者への検温・消毒・マスク着用の任意化や飲食可能スペースの再開、「横浜市こどもの美術展」への応募作品受付を従前の団体応募も可能に戻すなど、「ウイズコロナ」の施設運営の在り方を模索しました。

また、開館60周年及び現在地への移転10周年である令和6年度の「周年事業」実施に向けた準備を進め、次年度への布石を打つことにも留意しました。

イ 使命1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する

市民の皆さんに美術を中心とした文化芸術活動を創作、体験、発表する場を提供することで、市民の文化芸術活動を支援し、文化活動人口（文化活動の支援者を含む）の増加に寄与する。

＜市民の文化芸術活動を支え、交流を生み、情報発信のターミナルになるギャラリー＞

「市民のためのギャラリー」として、利用者の市民の皆さんの文化活動を支えることを意識し、細やかで丁寧な貸出業務を通じ、展覧会を開催する人・鑑賞する人・作品を創る人・体験する人…すべての人にとって「晴れの場」であり、身近に人と人が交流する喜びを生む空間が創出される運営を心掛けました。

また、当館がハブとなり市内の多くの美術施設の活動を集約し発信することで、横浜市における芸術文化活動を支援し、それに携わる人の増加に尽力しました。

ウ 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

美術を中心とした、芸術文化に触れる機会を提供することで、新たな気付きや発見を促し、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。

＜同時代の表現や、個人の創作活動を通して、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供するギャラリー＞

同時代に活動する作家の作品に触れ楽しむ「新・今日の作家展」では、現代美術作家の作品を紹介することにより、訪れた方々に心豊かな時間を提供するとともに、当館が新たな表現を発信してきた歴史を未来へ繋ぎました。

美術に対する体験を求める幅広い世代のニーズに応えるべく、多彩な講座を展開しました。

展覧会に気軽に訪れることができる場として、地域に根差して活動を展開する団体（町内会、公共施設、画廊、創造界隈拠点、神社仏閣、小学校、幼稚園、保育園等）と分野を越えて繋がり、人との出会いと多様な価値観に触れる機会を提供しました。

エ 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる

収蔵作品の調査研究に取り組むとともに、計画的かつ適切な管理・保存等を行うことにより、収蔵作品を次世代へ継承する。また、収蔵作品の活用を積極的に行い、美術に対する関心を喚起する機会を創出する。

＜市民の貴重な財産である収蔵作品を次世代に継承すべく力を注ぎ、その魅力を伝え、美術への関心を喚起するギャラリー＞

当館の収蔵作品は、同時代および地域の美術史をあらわす市民の貴重な財産です。作品が制作された当時の時代性が反映された表現は過去を知る手がかりとなり、現代においても新たな視点をもたらします。

この収蔵作品を「コレクション展」を核にホームページや情報誌での紹介などを通じ積極的に活用し関心を喚起する機会提供に注力しました。

また、収蔵作品を次世代へ継承するため、収蔵作品の状況及び修復や IPM を継続し収蔵庫の環境維持改善等の実務を着実に遂行するとともに、横浜市にも情報を共有しました。

オ 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる

次世代育成を中心に、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育む。

＜次世代の感性を育て、誰もが生涯にわたって芸術文化に触れる喜びを持つことができるギャラリー＞

当館の事業に参加することが、家庭、学校以外の「第3の場所」としての体験に通ずるよう、子どもたちの自由な発想と豊かな表現を育み、その健やかな成長を応援し、子どもたちが生涯にわたって芸術文化に親しむきっかけを提供しました。

また、学生インターンを受け入れ、アートにかかわる就業を目指す若い人たちに、実際の現場に触れる機会を設けました。市民ボランティアの方々には、アートに関わることで生きがいや豊かさを生活に取り入れる一助になったのではと考えます。さらに、中学生への職業体験を受け入れるなど子どもたちへのアプローチも試みました。

カ 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持する。また、効率的な経費の執行や収入増の取組等により、安定的な施設運営を行う。文化施設としての専門性を発揮し、市民の皆さんに親しまれる施設となる。

＜安心・安全で持続可能な施設であるために、変わらない安心と変わる勇気を持ったギャラリー＞

当館施設は、築36年（昭和62年・1987年竣工）を超えた建物を改修して利用しています。そのため、特に施設の長寿命化を図るための予防的修繕が重要です。建物管理を専門とし文化施設の施設運営に豊富な経験とノウハウを持つ事業体として、専門的な知見から常に状況を把握して維持管理を行うとともに、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画について横浜市に情報提供を行いながら協働し取り組みました。

快適な施設環境の提供とお客さまの安全を第一とした運営により、市民の文化活動を支え、多くの皆さんに親しまれる施設としての持続可能性を追究しました。

また、市民の貴重な財産である収蔵作品を将来に渡って状態良く受け継いでいくために、気候の変動やカビ・害虫などからの影響を受けない収蔵環境の構築に、施設内外と連携を図り尽力しました。

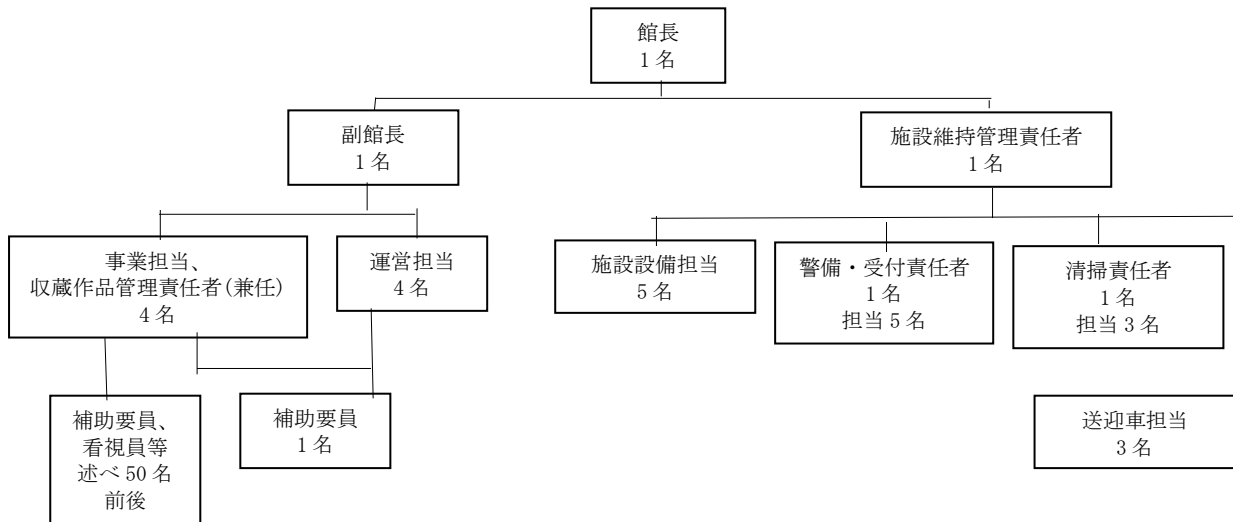
キ 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に貸館事業及び自主事業を実施し、市民の文化活動の基盤としての施設運営を継続する。

＜徹底した感染防止対策の下で、細心の注意と情報共有に努め、迅速に対応するギャラリー＞

横浜市との綿密な情報共有と連携を図り、国、県、市及び美術業界や業種別のガイドラインを踏まえた衛生管理や対策を徹底し迅速に対応しました。今年度に入り、様々な制約が緩和されて行く中において、次のフェーズとなる「ウイズコロナ」の施設運営を模索することで、市民の皆さんの文化芸術活動の基盤としての役割維持を目指しました。

4 運営組織の構造、人員配置



統括責任者である館長の下に、事業、運営系に横浜市芸術文化振興財団の職員（一部業務委託を含みます）が、施設維持管理系に西田装美株式会社の社員（送迎車は平和交通株式会社に委託）を配置しました。これは、共同事業体としての専門性、強みを活かした運営組織となっています。

5 令和5年度の業務の取組（報告1）

（1）文化事業

当館における基幹事業である「新・今日の作家展」、「横浜市こどもの美術展」、「コレクション展」といった長年開催し伝統ある展覧会と、アトリエを会場とした「大人のためのアトリエ講座」、「ハマキッズ・アートクラブ」等の講座・ワークショップに加え、「地元地域5館連携事業＝横浜・紅葉ヶ丘まいらん」、「若手アーティスト支援事業＝U35 若手芸術家支援事業」等を織り交ぜた展開を図りました。

事業全体としては、幅広い世代の鑑賞者や参加者への関心を喚起し、多くの方々に積極的に来館いただけるよう開催への工夫を心掛けました。

また、令和6年度に迎える「開館60周年」の記念事業についても併行して準備を進めました。

（2）施設の提供

施設（展示室・アトリエ）をスムーズにご利用いただけるよう、利用者の方々とのコミュニケーションを密に図りながら運営に取り組みました。令和5年度は、新規の個人・団体の利用登録は22件でした。

約3年間に渡って続いたコロナ対応による制約も緩和傾向となり、昨年度より展示室の利用率は回復段階に入りましたが、今年度は前年度比±0（89％）に止まり、頭打ちの様相を呈していません。引き続き新規利用者の開拓に努めていきます。

（3）施設運営

今までのお客様の利用データ把握を円滑にするため「お客さま台帳」を整備しました。また、令和6年度の開館60周年に、第4期提案書に掲げられている新規事業の「いりぐちギャラリー」を開設すべく準備を進めました。

(4) 施設管理

築 36 年となる当施設建物は、至る所に不具合が出てきています。いち早く変調を察知するため、日々の点検を確実に行いました。建物の長寿命化に向けて不具合箇所の修繕について横浜市に適切に相談し解決への手立てを打ちました。また IPM（総合的有害生物管理）の手法を通じた管理をより確実なものとするべく、環境管理会議を毎月実施し、その運営を軌道に乗せています。

(5) 収支

昨年度に引き続き光熱費の高騰等がありましたが、横浜市の指定管理料増や駐車場料金等の貸館利用料以外の収入獲得と経費削減により適切な収支バランスを確保しました。

年度収支差額は、3,720,221 円（財団人事異動に伴う人件費変動を除外した施設運営に係る実質年度収支差額は 401,221 円）となります。

(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

各種計画書・報告書につきましては、都度横浜市と協議し適切に提出いたしました。具体的な「業務評価」については完了確認表に記載します。

(7) その他

館の長年にわたる活動実績やコレクションの情報を公開し、調査研究など様々な目的で広く一般に活用していただけるよう、ホームページの事業アーカイブおよび収蔵作品検索ページの作品サムネイル画像を新規に 300 件の公開し拡充を図りました。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項（報告2）

※事業計画時の達成指標策定の前提として「コロナ禍」が終息期に入っている事を想定

(1) 使命1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）

通番	項目	R4実績	R5達成指標	R5実績	R6実績	R7実績	R8達成指標	R8実績	
1	施設利用率（展示室及びアトリエ）	展示室	89%	95%以上	89%	—	—	95%以上	—
		アトリエ	63%	44%	58%	—	—	45%	—
2	総来場者数	16.6万人	25万人以上	17.4万人	—	—	25万人以上	—	
3★	新規利用登録団体数（展示室、アトリエ共通）	28件	20件以上/年	22件	—	—	20件以上/年	—	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者、来館者の状況についての現状把握	R4実績	台帳の整備を進めました。
		R5達成指標	「お客さま台帳」の作成やアンケート調査を行い、ニーズを把握
		R5実績	「お客様台帳」を完成し稼働しました。引き続き、アンケート調査を行い、ニーズを把握しています
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	把握したニーズが運営に反映されている
		R8実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取組んだ事項

横浜市民ギャラリーにとっては、展覧会や各種講座への来場者も、またこれらを主催される利用者も、どちらも大切なお客様です。使命1はその運営の根幹となるため、全てにおしなべて重点的に取り組むべき事柄と考えています。

そのうえで、令和5年度は、U35若手芸術家支援事業（1件）の実施、また「お客さま台帳」を整備を実現し、今後継続運用していきます。

(2) 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	自主事業への参加人数	4,960 人	4,000 人以上	4,810 人	—	—	4,000 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.7	満足度 調査平 均4.0 以上	4.7	—	—	満足度 調査平 均4.0 以上	—
3 ★	5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」、アートなお散歩支援事業、地域連携事業などで新たに連携する団体	3団体	3団体	3団体	—	—	5団体	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	インタビュー手法について検討
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組んだ事項

「新・今日の作家展」では、対人距離や移動に制限のあったコロナ禍を経た今、現代美術作品に相対することが場や土地が内包する時間、人びとや生物の身体や記憶等に思索を巡らせ、自己や他者に対する内的な気づきをもたらすことに繋がるというコンセプトのもと、「ここにいる—Voice of Place」を副題設定し、2名のアーティスト(来田広大、古橋まどか)を紹介しました。アーティスト・インタビューおよびアーカイブの充実を図り、より多くの人の展覧会への関心を促すとともに作家の活動を広く発信しました。

「大人ためのアトリエ講座」では、引き続きクロッキーを定例開催すると共に、従前のジャンルにこだわらず「詩」や「背守り」等の新規分野による学びの場の創出にも積極的に取り組み、より幅広い顧客層の開拓に努めました。

また、横浜市民ギャラリーがこれまで築いてきた地域との関わりを軸に、近隣施設に出向いた出張ワークショップを行うことで住民の皆様が親しみをもちいただき、当館の広報に繋がりました。近隣エリアの文化施設とも定期的に情報交換を行い新たなクリエイティビティを創出し、相互に人

の流れを促しました。

(3) 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	R4実績	R5達成指標	R5実績	R6実績	R7実績	R8達成指標	R8実績
1	コレクション展への来館者数	4,842人	4,000人以上	3,333人	—	—	4,000人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.5	満足度調査平均4.5以上	4.6	—	—	満足度調査平均4.5以上	—
3★	本施設ホームページ収蔵作品紹介「今月の1点」への来訪者数	1,689件	3,000件	1,439件	—	—	3,800件	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標)

	項目	達成指標と各年度の実績	
		R4実績	実施
1	収蔵作品の状況把握	R5達成指標	作品の点検、確認を行い各種データに反映
		R5実績	実施
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	横浜市と以降5年の作品修復計画を協議
		R8実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組んだ事項

今年度の「コレクション展」は、「版をうつす」と題し、当館初となる版画特集の展覧会を開催しました。木版と銅版それぞれの技法による作風の違いや、同じ技法のなかでも各作家がつくる表現の多様さ、写真を取り入れた版表現の様々な展開の紹介に加え、版画家・一原有徳の小展示を設けるなど個性あふれる現代版画の豊かな魅力をお届けしました。あわせて会場では、展覧会をより一層理解しお楽しみいただけるよう、技法のパネル掲出出品や作家のインタビュー映像なども上映しました。また本展では、ボランティアの鑑賞サポーターが、それぞれのおすすめ作品の紹介文の執筆や、来場者と作品を見ながら会話を楽しむイベントを行い、当館所蔵作品と来場者をつなぐ役割を担いました。そのほか、子どもから大人まで誰でもその場で参加できる紙版画のワークショップや、小学生と展覧会や館内を探検するツアーなど、幅広い年代の方に参加いただけるイベントも開催しました。

当館コレクションについては、情報誌やホームページでの作品紹介を行ったほか、エントランスモニター等での作品紹介について今後の取り組みを検討しました。

経常的には業者委託による作品修復に加え、専門家のレクチャーを受けた職員による自前クリーニングも行い作品保全に努めました。また、修復後の作品を中心に作品画像の新規撮影を行い

アーカイブの充実を推進すると共にホームページにおける検索システムの充実を図りました。

(4) 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	次世代育成を目的とした事業への参加人数	4,138 人	15,500 人以上	10,762 人	—	—	15,500 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	満足度 平均 4.9	満足度 平均 4.5以上	4.8	—	—	満足度 平均 4.5以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—
2 ★	事業に参加した親子、職業体験参加の生徒・保護者(特別支援学校・養護学校)へのアンケート実施	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	結果分析、事業見直し、企画立案
		R 5 実績	実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	事業一部リニューアルまたは新規事業開始
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組んだ事項

55回目を迎えた「横浜市こどもの美術展」では、「夏」部門と「自由テーマ」部門、あわせて1,386点が集まりました。2020年以降、コロナ禍での展覧会の中止や規模の縮小がありましたが、4年ぶりに当館の1階から3階まで、展示室が子どもたちの作品でいっぱいになり賑わいました。会期中には、思いをこめて描いた作品が展示された様子を見に、大勢の子どもたちやそのご家族などが来場しました。あわせて、令和4年度からスタートした「こどものためのコレクション展」を実施し、美術鑑賞が初めての子どもたちも気軽に美術に親しめるきっかけを作るとともに、みんなで協力して空間を飾る参加型コーナーを設置するなど、来場者が能動的に関わる機会も提供しました。これらのイベント運営にあたっては、中学生から高齢者まで幅広い年代のボランティアが参画し、や大

学生・大学院生も子どもに関わる事業の現場体験を積みました。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	R4実績	R5達成指標	R5実績	R6実績	R7実績	R8達成指標	R8実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	0件	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	138%	90%	447%	—	—	90%	—
4	自主的な収入を得るための取組と目標額	1,802万円/年	1,500万円/年	1,601万円/年	—	—	1,500万円/年	—
★5	IPM (総合的有害生物管理)の手法による環境管理の実施率	100%	100%	100%	—	—	100%	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R4実績	実施手法について検討
		R5達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R5実績	実施
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R8実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組んだ事項

当館施設は、築36年を超えた建物のため、修繕が必要となる箇所も多く、予防的修繕や維持管理をこまやかに実施しました。長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画については横浜市に情報提供を行いました。

IPM (総合的有害生物管理) では、施設内の情報共有を密にし、所蔵作品を持つ施設として環境維持への意識を高く保つため、令和4年度より新たに共同事業体で環境管理会議を月1回設け、組織として環境改善に取り組む体制を整えました。

IPM (総合的有害生物管理) では、施設内の情報共有を密にし、所蔵作品を持つ施設として環境維持への意識を高く保つため、令和4年度より開始した共同事業体による月1回の環境管理会議を継続し、情報共有・環境改善に役立てています。

(6) 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

指名6を達成するために重点的に取組んだ事項

横浜市との綿密な情報共有と連携を図り、国、県、市及び美術業界や業種別のガイドラインの動向を踏まえ、それに沿う形での衛生管理や対策を徹底し迅速に対応することで、市民の皆さんの文化芸術活動の基盤としての役割を維持しました。今年度に入り、様々な制約が緩和されて行く中において、次のフェーズとなる「ウイズコロナ」の施設運営を模索することで、市民の皆さんの文化芸術活動の基盤確保を目指しました。

令和5年度 「横浜市民ギャラリー」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	152,985,000		152,985,000	152,985,000	0	横浜市より
利用料金収入	12,182,000		12,182,000	13,070,850	△ 888,850	施設利用料、駐車場収入
自主事業収入	2,170,000		2,170,000	2,092,810	77,190	受講料、広告料
雑入	1,703,000	0	1,703,000	844,717	858,283	
印刷代	40,000		40,000	24,520	15,480	
自動販売機手数料	160,000		160,000	192,960	△ 32,960	
その他(助成金・協賛金等)	1,503,000		1,503,000	627,237	875,763	助成金、雑収入等
収入合計	169,040,000	0	169,040,000	168,993,377	46,623	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	75,329,000	0	75,329,000	71,438,701	3,890,299	
給与・賃金	62,424,000		62,424,000	59,284,794	3,139,206	実配置による実績/展覧会看視員等人件費含まず
社会保険料	8,527,000		8,527,000	8,614,154	△ 87,154	
通勤手当	1,306,000		1,306,000	1,318,386	△ 12,386	
健康診断費	71,000		71,000	32,655	38,345	
勤労者福祉共済掛金	48,000		48,000	48,000	0	
退職給付引当金繰入額	2,953,000		2,953,000	2,140,712	812,288	実配置による実績
事務費	3,225,000	0	3,225,000	3,528,893	△ 303,893	
旅費	150,000		150,000	179,494	△ 29,494	
消耗品費	201,000		201,000	526,065	△ 325,065	消火器交換/展示用脚立等購入
会議賄い費	3,000		3,000	0	3,000	
印刷製本費	150,000		150,000	31,160	118,840	
通信費	710,000		710,000	774,118	△ 64,118	
使用料及び賃借料	693,000	0	693,000	742,060	△ 49,060	
横浜市への支払分	123,000		123,000	122,760	240	目的外使用料
その他	570,000		570,000	619,300	△ 49,300	
備品購入費	0		0	0	0	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	33,000		33,000	42,252	△ 9,252	
職員等研修費	10,000		10,000	2,000	8,000	
振込手数料	135,000		135,000	57,420	77,580	
リース料	1,079,000		1,079,000	1,078,620	380	
手数料	25,000		25,000	21,670	3,330	
地域協力費	36,000		36,000	36,000	0	
その他支出	0		0	38,034	△ 38,034	美術館協会会費等
事業費	16,461,000	0	16,461,000	15,715,571	745,429	
自主事業費	16,461,000		16,461,000	15,715,571	745,429	展覧会看視員等人件費含む
管理費	60,944,000	0	60,944,000	61,982,766	△ 1,038,766	
光熱水費	11,000,000	0	11,000,000	9,426,966	1,573,034	
電気料金	7,195,000		7,195,000	6,588,220	606,780	
ガス料金	3,195,000		3,195,000	2,306,574	888,426	冷暖端境期の冷却器運転抑制による削減
水道料金	610,000		610,000	532,172	77,828	
清掃費	0		0	0	0	その他保全費に含む
修繕費	471,000		471,000	2,104,300	△ 1,633,300	3F展示室固定壁面整備等
収蔵作品点検・修復費	1,200,000		1,200,000	1,731,400	△ 531,400	
機械警備費	0		0	0	0	その他保全費に含む
設備保全費	48,273,000	0	48,273,000	48,720,100	△ 447,100	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
消防設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
電気設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
害虫駆除清掃保守	700,000		700,000	159,720	540,280	その他保全費に一部含む
駐車場設備保全費	0		0	0	0	その他保全費に含む
その他保全費	47,573,000		47,573,000	48,560,380	△ 987,380	清掃費、機械警備費、空調衛生設備保守、消防設備保守、電気設備保守、害虫駆除(一部)、駐車場設備保全費、送迎車委託費、廃棄物処理等
共益費	0		0	0	0	
公租公課	6,846,000	0	6,846,000	6,372,225	473,775	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	6,797,000		6,797,000	6,325,238	471,762	
印紙税	25,000		25,000	26,000	△ 1,000	
その他(法人住民税・電波使用料)	24,000		24,000	20,987	3,013	
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	6,235,000	0	6,235,000	6,235,000	0	
本部分	6,235,000		6,235,000	6,235,000	0	
当該施設分			0	0	0	
支出合計	169,040,000	0	169,040,000	165,273,156	3,766,844	
差引	0	0	0	3,720,221	△ 3,720,221	財団職員の人事異動により、予算より3,319,000円職員人件費が減少している分を含んでいる。そのため施設運営の実質的な収支差額は、401,221円である。

自主事業費収入				2,092,810		
自主事業費支出				15,715,571		
自主事業収支				△ 13,622,761		
管理許可・目的外使用許可収入				192,960		
管理許可・目的外使用許可支出				122,760		
管理許可・目的外使用許可収支				70,200		